

事業名：「RowingにおけるLTV最大化に向けたプラットフォーム構築事業」

団体名：公益社団法人日本ローイング協会

事業実施の背景・課題、目標

□ 抜本的な普及改善

人口減少・過疎化が進む中、従来の団体任せの競技者獲得から離脱し、他競技からの転向やフィットネス需要の取り込みによる普及が求められる。

□ 観客の育成・収益化

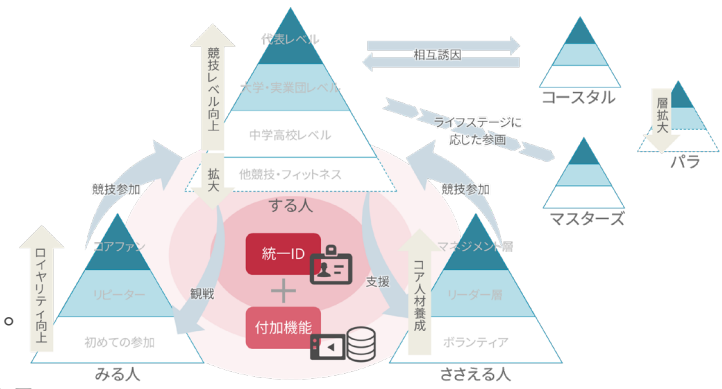
組織基盤強化に必須となる“みる人”からの収益獲得について、2022年5月の全日本選手権を皮切りに、顧客育成も含めた早急な検討・実行が求められる。

□ 運営面での効率化

マスターズを含む選手登録や選手・観戦者・ボランティアへのAD発行など、人・リソースを一元管理することで、大会運営時を中心に効率化が求められる。

□ トレーサビリティの充実

「誰が・いつ・どのように参加したか」「何に関心を示したか」を統一的に管理することにより、LTVの最大化に対し能動的にアプローチすることが求められる。



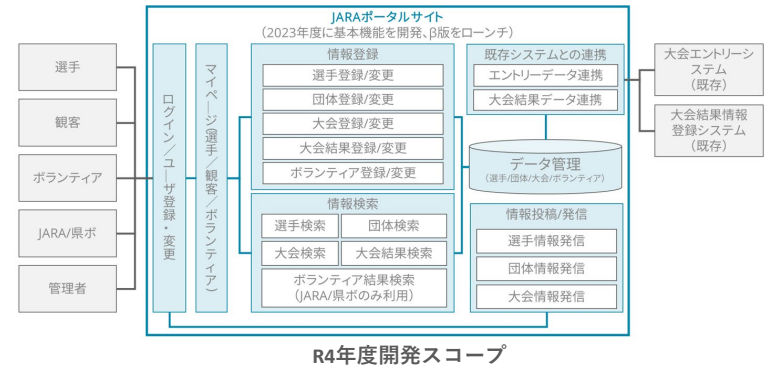
本事業における具体的な取組内容

プラットフォーム構築

実施期間：令和4年度～令和6年度

取組内容：以下の目的を達成するため、プラットフォームを構築する

- Rowingに関わるすべての人のすべての活動を統一IDで管理
- 活動のトレースと付加機能の提供を通して、あらゆるステークホルダーが生涯を通してRowingから得られる価値を最大化
- 関わり方ごとに競技レベル・ロイヤリティ・運営ステージを向上
- “する”⇔“みる”⇔“ささえる”の人材還流や、競技カテゴリを越えた相乗効果を創出
- Ergoの記録管理を足掛かりに、他競技・フィットネス層へ普及拡大



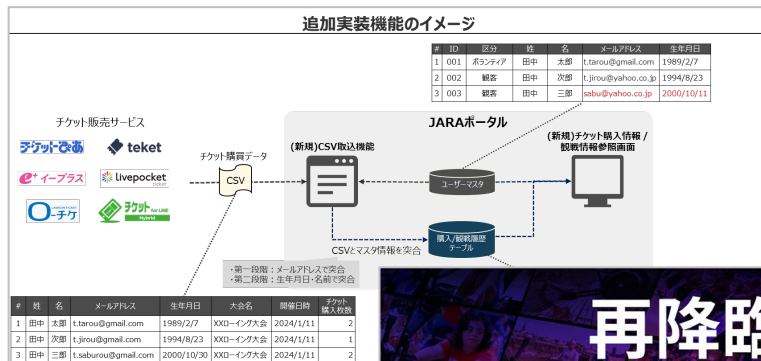
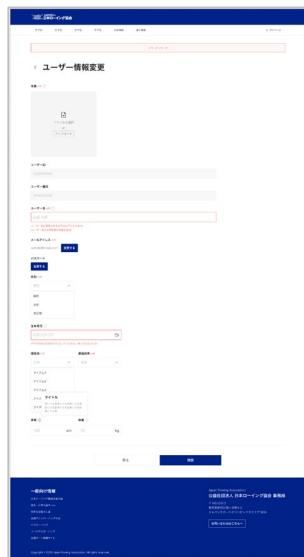
令和5年度の取組内容

- ・ 昨年度より実施してきた要件定義に基づき、RFPを実施し開発業務を委託する業者を選定
- ・ 10月より実開発に着手し、基本設計・詳細設計・環境構築・テストを実施
- ・ 並行して次年度の追加実装機能の選定・要件の整理、外部サービスとの連携方式の整理を実施

令和5年度の取組の進捗・成果・課題

【令和5年度の進捗・成果】

- ・ プラットフォーム構築にかかる開発作業への着手及びβ版のリリース
- ・ 追加機能実装・外部サービス連携に向けた令和6年度の開発スコープ及び要件の定義
- ・ 「2024バーチャルインドアローイング大会」の開催等を通じたローイング競技への参加人口の拡張



【令和5年度に生じた課題】

- ・ プラットフォームで蓄積する個人情報保護等にかかる情報セキュリティにかかる要件の整理
- ・ 利用者の声を踏まえた継続的なシステム改善サイクルの実現に向けた取り組み体制の整備

本事業の成果目標・KPIの達成状況

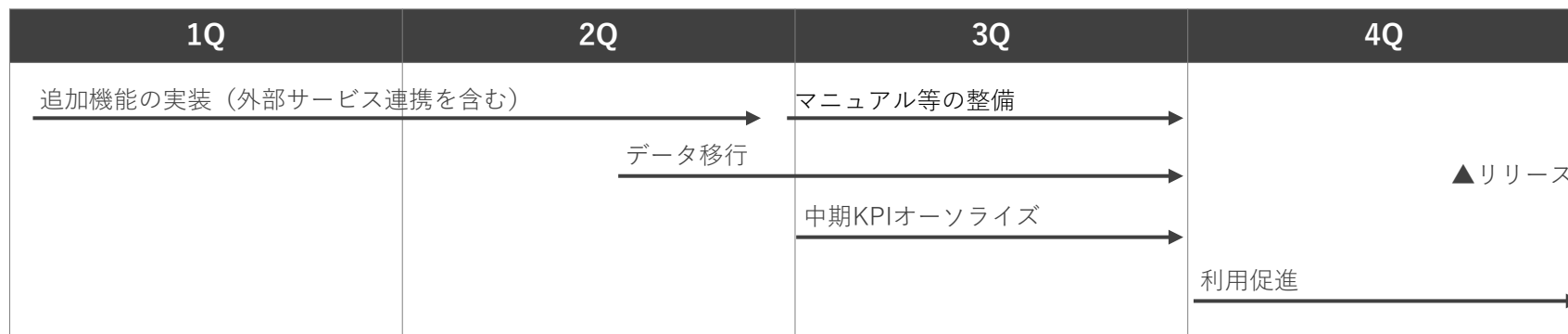
本事業の最終年度である令和6年度における目標は以下の通りであり、いずれも達成する見通し

- 年度内の一般ユーザ向けリリース、データ移行
- 中長期のKPI及び収支計画に関する協会内オーソライズ

令和6年度の実施予定

【令和6年度の実施内容】

- 外部サービスとの連携を含む追加機能の実装を確実に進め、一般ユーザ向けのリリースを実現する。
- これに先立ち、運用体制の確立、中長期のKPI及び収支計画に関する協会内オーソライズを実施する。
- リリース後においては、団体・選手登録者の利用率の向上、非ローイング競技者への利用促進へのアプローチを実施し、アクティブユーザの最大化に向けて継続的な活動を実施する。



【令和6年度の改善策】

- 外部サービスとの連携を含む追加機能の実装を確実に進め、一般ユーザ向けのリリースを実現する
- 継続的な運用が可能となるよう、協会内の体制を確実なものとする
- 本プラットフォームにかかる収支計画を精緻化する